

カラダと組織を守る

危険植物対策



① 現象には必ず理由がある

→ 危険生物による事故にも理由がある

② 原理がわかれば応用ができる

→ 事故が起こる種を知れば予防できる

「知ることは最初の事故予防」

・何が危険なのかを知る

・どう危険なのかを知る

危険生物の事故発生パターン

危険動物

能動的な理由 吸血など

受動的な理由 刺激に対する反撃

危険植物

受動的な理由

1. 触ることによって被害

2. 食べることによって被害



動けないからこそその防御策

危険動植物の毒学

～動物との違いは？～

動植物の毒

※主要な毒素についての分類

タンパク系



マンダラトキシンなど



プロテアーゼなど



ホスホリパーゼなど

アルカロイド系



ニコチン



カフェイン



カプサイシン



ソレノブシン



テトロドトキシン

生活に利用される成分には植物由来が少ない

ステロイド系

プフォトキシン



ソラニン

ピレスロイド

天然ピレトリンを人工改変



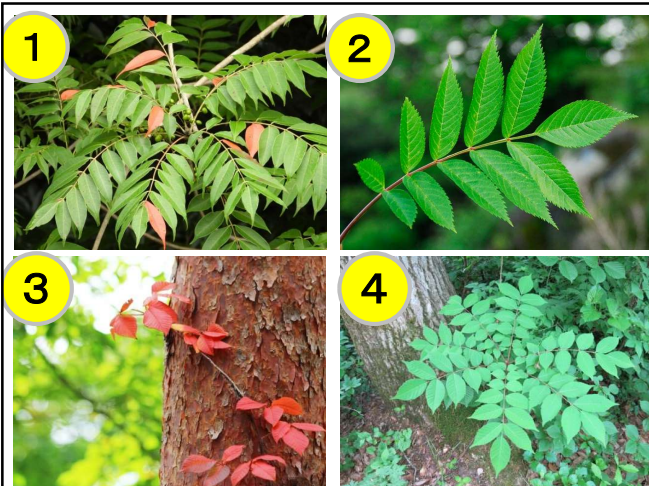
危険植物の自己防衛手段

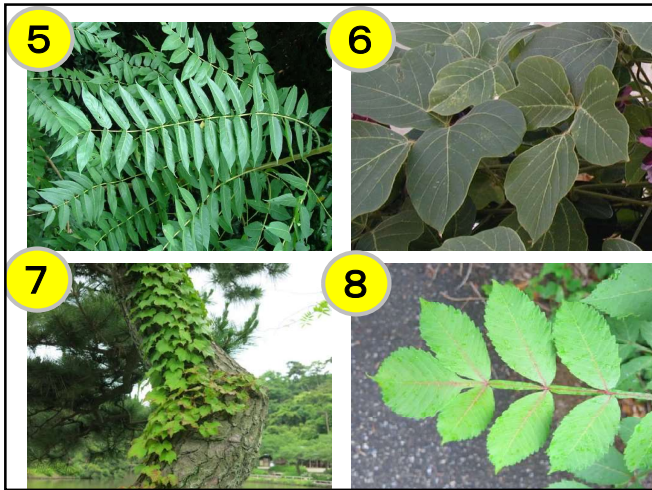
- ・トゲをもつ
- ・自己防衛物質をつくる

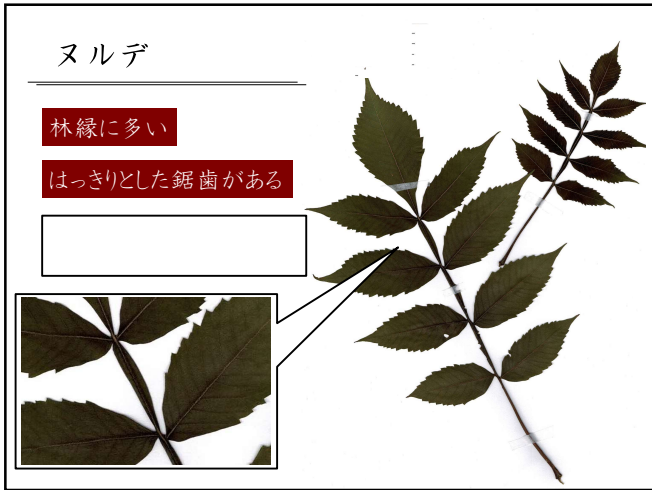


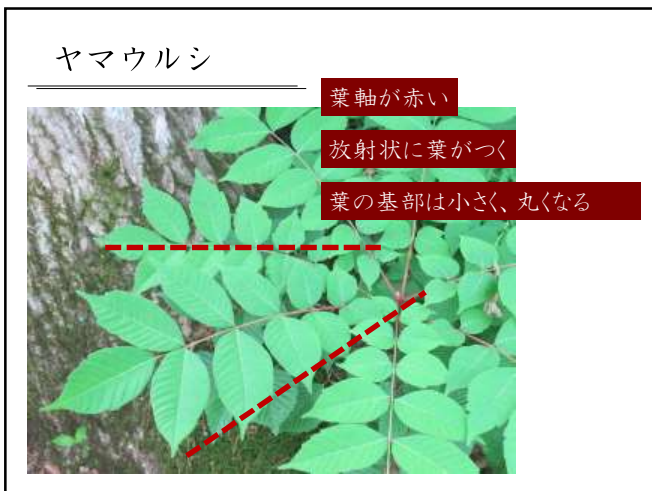
ヒトにも有効に活用できるもの「薬草」
ヒトにも有害であるもの「毒草」

危険植物 ～「触っちゃダメ」編～









ハゼノキ

小葉の先が長く伸びてとがる

葉はやや硬く、光沢がある

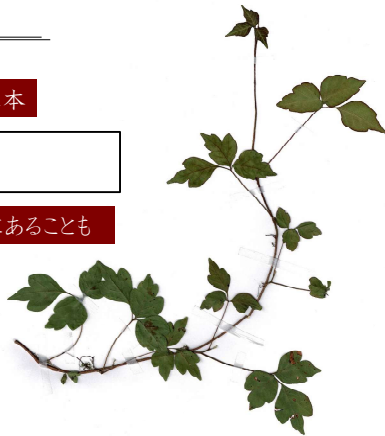
先端の葉は1枚

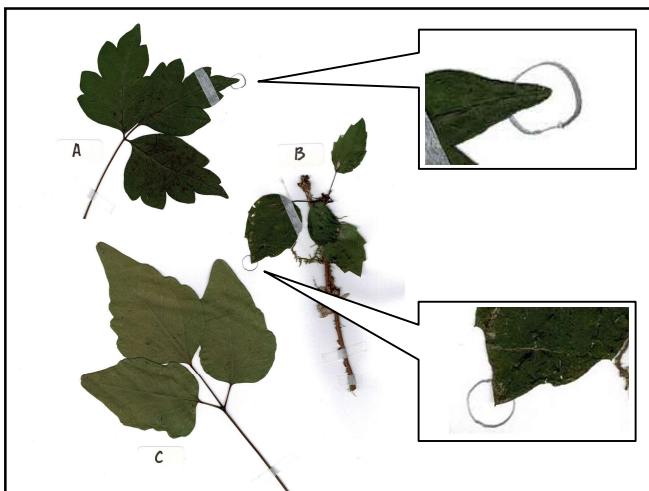


ツタウルシ

三出複葉のつる性木本

林床に幼木が多量にあることも











ウルシ系

かぶれやすさ・遭遇頻度等を考慮した危険度

危険度高 危険度小

ツタウルシ	ヌルデ	ヤマウルシ	ハゼノキ
			
つる性木本	小高木	小高木	高木
三出複葉	羽状複葉		

被害

発疹、腫れ、かゆみ、水疱 等

1. 乳白色の樹液に触れると、直後～数日後に発症
2. 発症後、10日程度でかゆみが治まる

【原因物質】:ウルシオール・ラッコール

葉に触れる・下を通るだけで症状が出る場合も
(特に、ツタウルシ)

生木を燃やした煙で、かぶれ、咳の症例も

応急処置・予防策

応急処置

※2014年 米国皮膚科学会発表

- ① 石けんとぬるま湯で洗浄
- ② 衣服を洗う
- ③ ぬるめのシャワーを浴びる
- ④ 冷却

・患部をこすったり
掻いたりしない

・樹液を触った手で
あちこち触らない

予防策

1. 長袖、長ズボン、グローブを着用する
2. 触れない
3. 離れて観察する

2. トゲ系

アザミ類



属名: アザミ科
学名: *Cirsium japonicum*
科名: キク科
科名: キク科
科名: キク科
科名: キク科

キイチゴ類



属名: キイチゴ科
学名: *Opuntia*
科名: キイチゴ科
科名: キイチゴ科
科名: キイチゴ科
科名: キイチゴ科

イラクサ類

半日陰の沢沿いなどに多い

棘にヒスタミンを含む

オオバ(シソ)に似る



種名: イラクサ
学名: *Urtica dioica*
採集地: 静岡県 浜松市
採集日: 2019年7月23日
撮影:

応急処置・予防策

応急処置

- ① テープなどで棘を除去
- ② 水洗い
- ③ 抗ヒスタミン軟膏
- ④ 必要に応じて冷却

※患部をこすったり
搔いたりしない

※衣服に刺さっている場合
衣服にもテープ類で
棘をとり、洗浄する

予防策

1. 長袖、長ズボン、グローブを着用する
2. 触れない
3. 離れて観察する

メモ

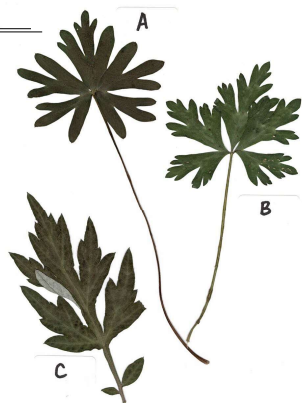
危険植物 ～「食べちゃダメ」編～

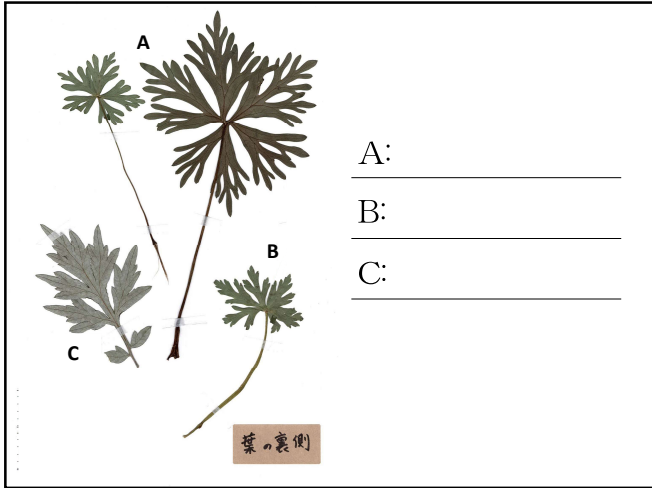
応急処置の基本手順

- ① 苦味などを感じたらすぐに口から出す
- ② 無理して吐かせず、早急に病院へ

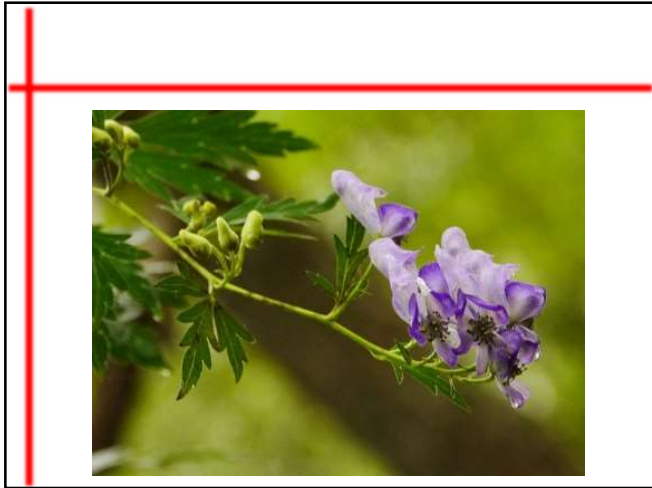
食べちゃダメなのは？

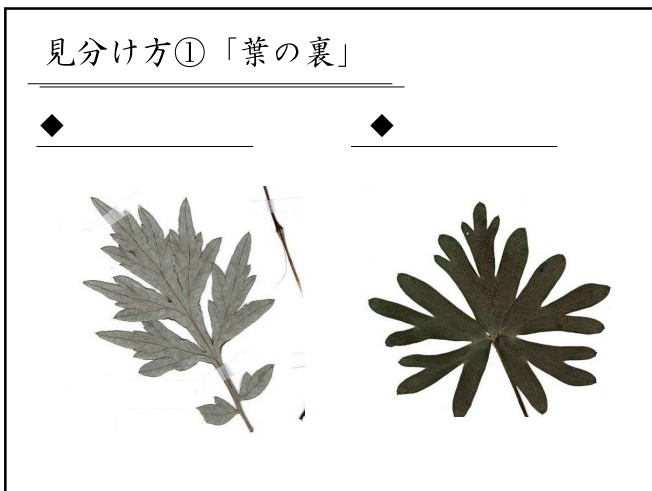
1つは毒草
2つは山菜





A: _____
 B: _____
 C: _____





見分け方②「生え方」





食べちゃダメなのは？



A



B

シキミ

全株有毒

東北地方以南に分布

寺社で栽培されることが多い

日本には八角(トウシキミ)は自生しない



日本で八角が
落ちていることはない！



被害

シキミ



被害

おう吐、けいれん、呼吸困難 等

1. 毒成分名: アニサチン、シキミン

2. 誤食後、1〜6時間の潜伏期間

事例

・シイの実、八角と間違えて誤食

《応急処置》

口から出す → 病院へ ※ 原則、早急に病院へ

※ 特に、症状が出てからの場合は、
けいれんを誘発する可能性があるため、無理に吐かせない。

イチョウ

かぶれ・中毒 2つの危険がある

全株有毒

中国原産

全国植栽本数 No.1



被害(かぶれ)

アレルギー性皮膚炎

かぶれ誘発成分: **ギンコール酸**

→ウルシオールに似た成分。

→葉やくさい外種皮に含まれる。

《応急処置》

- ① 水洗い
- ② 抗ヒスタミン軟膏
- ③ 冷却



被害(中毒)

嘔吐、けいれん、腹痛、呼吸困難など



毒性成分: **ギンコトキシン**(ビタミンB6に似た物質)

危険な摂取量: 小児で7~150個、成人で40~300個と幅がある。

1. 摂取後、1~12時間で発症。
2. 90時間以内に回復。(幼児、子どもの死亡事例あり)

《応急処置》

口から出す → 病院へ ※ 無理せず早急に病院へ

※ 特に、症状が出てからの場合は、
けいれんを誘発する可能性があるため、無理に吐かせない。

活用される植物の毒

